

02 へら鮎釣りに必要な道具

へら鮎釣りの道具はいろいろなものがあります。釣る場所によっても必要になる道具は変わります。

ここではへら鮎釣りに最低限必要な道具や仕掛けまわりの小物などを紹介します。



● 竿

へら鮎釣りでは、へら鮎釣り専用の「へら竿」を使います。振り出し竿と並継ぎ竿がありますが、一般的には並継ぎ竿が選ばれています。



枕

● 竿掛け

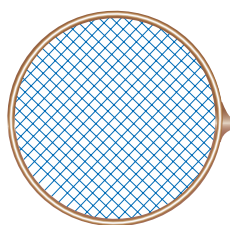
へら鮎釣りは、エサを投入した後に竿先を水中に沈めてアタリを待ちます。ウキに余計な動きを出さないために竿を静止させる、竿、ウキとともになくてはならない道具です。



万力

● 万力・枕

竿掛けを固定して、竿を乗せる道具です。竹製やカーボン製の竿掛けの中に差し込む弓式のもの、金属製で石突き式の竿掛けを差し込む大砲型のものがあります。



玉網

● 玉網(タモ)

へら鮎釣りでは、釣ったへら鮎を一気に水中から引き抜くことはしません。魚の保護や仕掛けのトラブル防止のために、手前まで引き寄せた魚をすくうための網です。

● ウキ

ウキは魚の寄り具合や、エサを吸い込んでいる状態など、水中の状態を唯一釣り人に伝えてくれる大切な道具のひとつです。



● 道糸

一般に使用する太さは0.6号から1.5号程度ですが、最初のうちは0.8号を使うのがよいでしょう。



● ハリスとハリ

へら鮎釣りでは、寄せるエサと食わせるエサの2本のハリを使います。ですから、ハリスも2本。ハリスの号数は、1本が道糸の半分の太さを目安にして下さい。0.8号の道糸を使うのであれば、ハリスの号数は0.4号になります。ハリの種類や号数は様々で、ハリにハリスがセットされた商品もあります。最初のうちは糸付きハリを使った方がよいでしょう。



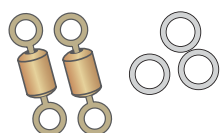
木綿糸

● 木綿糸(トンボ用)

タナの目印となるトンボとして、またウキ止めゴムのストッパーの代わりや補強としても使えます。

● ウキゴムとウキ止めゴム

仕掛けにウキをセットするパーツです。

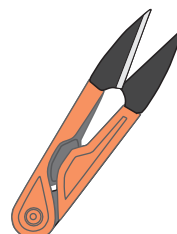


● ジョイント(ヨリモドシ、丸カン)

道糸とハリスをつなぎます。

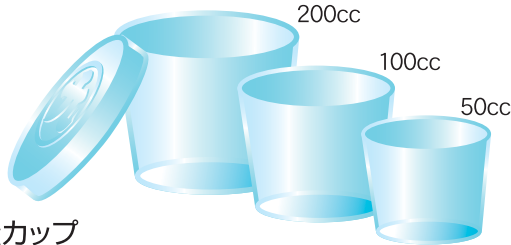
● 板オモリ

ウキのバランスを取るために使う、板状のオモリです。厚さが0.2～0.25mmくらいのもので使いやすいでしょう。



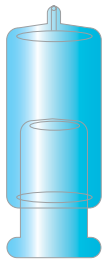
● ハサミ

糸や板オモリをカットするために使います。へら鮎釣りには必需品のひとつ。



● 計量カップ

エサや水の分量を計るために使います。計量カップを用いると、常に同じエサが作れるので便利です。



● オカユポンプ

わらびウドンやインスタントウドンを入れて一定量を押し出して使う、注射器型の道具です。

● タナ取りゴム

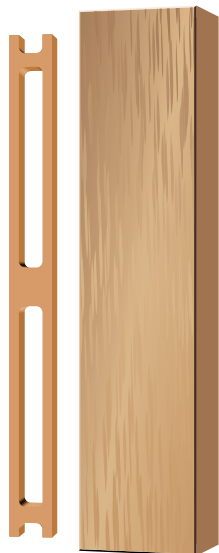
底釣りをする際、底までの水深を測るときにハリに付けて使います。



● 仕掛け巻き

仕掛けケース

仕掛け巻は作った仕掛けを巻いておくものです。トラブルが起きたときに交換できるように、予備の仕掛けを作っておいて仕掛けケースに入れておくと安心です。



● エサ

へら鮎釣りでは生餌(ミミズやアカムシなど)は原則として使用しません。両ダンゴやバラケエサとして使う麩エサ、またグルテンなどの練りエサを使います。

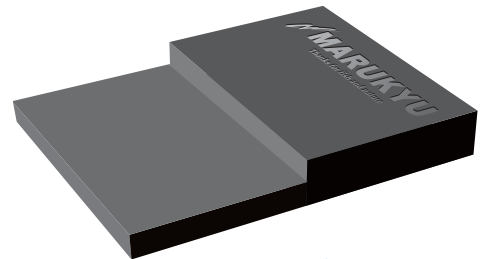
● エサボウル

いろいろな形のものがありますが、プラスチック製の洗面器タイプのがよく使われています。水汲み用や次のエサを作るために、最低3個は用意しましょう。



● 座布団

へら鮎釣りは長時間座りながら釣りをしますので、疲れを軽減させるためにも座布団は必要なアイテム。2つ折の段差付きと段差なしのものが市販されています。



● タオル

エサ付けなどで汚れた手を拭いたりするのに使います。また、エサボウルをおおって麩エサの水分が抜けてタッチが変わってしまうのを防ぎます。最低でも2枚は用意しましょう。

